

5 Expanding research across disciplines

研究を学際的に展開したい

第19回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。
あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっています。
そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。
毎回のテーマに関して、なにか知識が必要ということはありません。唯一お願いするのは、毎回提示される文章をともかく読んでくること、それだけです。
また、「議論」はしますが、なにか結論を導こうとして話をするわけではありません。テキストを読んで思ったことを自由に話してもらえばいいわけで、もちろんその場で誰かの発言をきいて思いついたことを話しても結構です。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。
気軽な気持ちで参加してください。
いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

開催日時 2024年8月3日[土]15:30-17:00

話題提供者 岡本 考生 (文学部3回生)

テーマ 「生まれ方と生き方」

世話人 宇佐美 文理 (文学研究科 教授)

会場 百周年時計台記念館 会議室Ⅱ

今回は上記のテーマについて、ともに考えてみたいと思います。
テキストは下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

対象：京都大学学部学生(正規生) 先着10名 費用：無料 使用言語：日本語

申込方法：下記URLもしくは右記QRコードよりお申し込みください
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/20240803/>



これまでの開催記録はこちら
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



主催・お問い合わせ 京都大学学術研究展開センター (KURA) 「百万遍談議」担当 | jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp



2024年8月3日
百万遍談議 開催報告

第19回 生まれ方と生き方

話題提供者

岡本 考生（文学部3回生）

参加者：7名

[内訳]

1回生3名（文学2・農学1）

3回生2名（文学・総合人間学）

4回生2名（法学）

談議メモ

今回は特別に、京都大学百周年時計台記念館にて開催しました。

また、第17回に引き続き文学部3回生の岡本 考生さんに「生まれ方と生き方」をテーマにテキストを執筆してもらい、話題提供をお願いしました。世話人は宇佐美 文理 教授です。

使用テキストに綴られた物語は、「技術革新の凄まじい、なんでもロボットが願いを叶えてくれるエリア」と「年中内戦が絶えないエリア」と「大変平凡なエリア」の3つのエリアに分かれた国が、自国民の行動を監視・記録した上で、25年毎に「善行」と「悪行」の質と量により国民を3つのエリアのどこかに振り分けようとする、というものでした。談議の冒頭では、この国の仕組みが仏教の「輪廻転生」に似ている、という指摘から「宗教において『罪』はどのようなものか、何が『罪』とされるのか、如何にして『罪』から救われるのか」といった話題になりました。

また、生まれたときの環境によってその後の人生がほとんど決まってしまう、というこの物語が「現代社会への風刺」ではないか、という指摘が飛び出し、そこから「大学で勉強できる自分は恵まれている立場にあり、そのことが後ろめたい」という発言に、一同考えさせられたようでした。

最後に、「3つのエリアで用いられる善悪の基準が同じであることが問題なのではないか」という指摘から、法律や法律以前の倫理に関するあり方についての議論になるなど、様々な切り口から話が盛り上がった回となりました。